令和８年度　第３回長野市総合計画審議会　会議録

日　時：令和８年９月29日（火）午後３時30分から５時40分まで
場　所：講堂（長野市役所第二庁舎10階）
出席者：委　員/池森梢委員、今村晴彦委員、岡宮真理委員、北澤陽委員、久米えみ委員、
　　粂井裕至委員、児島昭委員、小山茂喜委員、清水範子委員、髙木直樹委員、
　　髙橋圭子委員、塚田篤雄委員、中村庄市委員、中村千佳委員、
　　西澤佳代子委員、藤原祐一委員、松澤今朝好委員、柳沢吉保委員
　　長野市/ 企画政策部長、事務局（企画課）
欠席者：委　員/青木保委員、金藤理絵委員

１　開会

２　会長あいさつ
（髙木会長）
本日はお集まりいただき、ありがとうございます。
今年度第３回目の審議会となりますが、今後はあと２回の審議会を予定しています。次回は中間答申案の最終確認、その後、パブリックコメント等を経て、最終答申案についてご審議いただく予定です。
今後のスケジュールを考えますと、計画の本質的な部分について議論できる機会は、今回が大きな節目になると思います。
本日は遠慮せず、気になることがあれば、ぜひ率直にご発言いただければと思います。本日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。

３　議事
（１）第五次長野市総合計画後期基本計画令和７年度の進捗状況について
「資料１」について事務局より説明
・質疑なし

（２）第六次長野市総合計画（案）について
「資料２」について事務局より説明

【第１章 序論(1～7ページ)】

（小山委員）

４ページ 02 について、「中山間地域の豊かな自然や文化を守り、活かしながら」とあるが、「守る」という表現は、取組の効果を評価する際に厳しい評価につながる可能性があるため、「大切にしながら」など、もう少し柔らかい表現としてはどうか。

03 について、「都市構造」という言葉は、市街地だけではなく、市街地周辺や中山間地域を含めた市内全体の都市の構成を指すものと考えられるが、一般の市民には「市街地」をイメージする言葉として捉えられる可能性があるため、その意味が分かるよう注釈を加えてはどうか。

04 について、冒頭が「コロナ禍を経て、東京一極集中が再び進む一方」となっているが、東京一極集中が続く中で、コロナ禍を契機として地方移住や二地域居住への関心が高まったという趣旨が伝わるよう、前段の表現を検討してはどうか。

５ページ 08 について、「国籍や文化の違いを認め合い」としているが、28 ページの指標と同様に「尊重し合い」といった表現としてはどうか。

６ページについて、「ＳＷＯＴ分析」の注釈があるが、ＳＷＯＴの頭文字がそれぞれ何を意味するのかについても説明を加えることで、市民にとってより理解しやすくなるのではないか。

（事務局）

ご意見を踏まえ、各記載について修正を検討する。特に、ＳＷＯＴ分析については、市民にとって分かりやすい内容となるよう、注釈等の修正を行う。

（髙木会長）

４～５ページについて、一部の文字が太文字で強調されているが、意図的なものなのか。また、最終的な計画書でもこの表記とするのか確認したい。

（事務局）

各項目の中でキーワードとなる部分を強調するために太文字としており、最終的な計画書でもこの表記を残す予定である。

（柳沢委員）
ＳＷＯＴ分析について、分析結果が施策の大綱や基本計画にどのように活かされているのか分かりにくい。
また、「豊かな自然環境」については、長野市の文化も含めて「豊かな自然環境・文化」としてはどうか。「広域交通網を活かした産業立地」は内部環境ではなく外部環境に当たるのではないか。
さらに、「北陸新幹線敦賀延伸による広域交流の拡大」は、交流拡大の機会である一方、地域間競争の激化という脅威にもなり得るため、両面から捉える必要がある。

（企画課長）
ＳＷＯＴ分析は、長野市の強みや課題を整理するとともに、時代の潮流や社会情勢の変化を踏まえ、課題の克服や強みを伸ばすための政策を検討するための整理として活用している。分析結果と政策が一対一で対応するものではないが、基本計画や個別計画の検討に活かしている。

（柳沢委員）
一般の市民にはそのつながりが分かりにくいため、ＳＷＯＴ分析が施策の大綱や基本計画につながっていることが分かるよう、イメージを示してはどうか。

【第2章　基本構想（8～18 ページ）】
＜長野市の将来像・施策の大綱（9～11 ページ）＞
（小山委員）
まち部門の視点①「自助・共助・公助」の順で表現されているが、本計画では、市民や地域、行政などがつながり、協働してまちづくりを進めることが基本的な考え方にあると思う。「自助」を先に置くことで、市民に個々の努力を求める印象が強くなる可能性もあるため、「共助」を中心に据えるなど、文脈に応じて順番や表現を工夫してはどうか。

まち部門の視点④「多様な主体による支え合い」について、「多様な主体」が何を指すのか分かりにくいため、「地域の様々な人々や団体」など、より具体的な表現としてはどうか。また、「コミュニティが形成される」についても、「人と人とのつながりが生まれる」など、より平易な表現とした方が市民に伝わりやすいのではないか。

産業部門の視点①「愛着と誇りが育まれ」について、「地域への帰属意識が高まる」とした方が、愛着や誇りを持つことにとどまらず、その先の地域への関わりや行動につながることを示す表現になるのではないか。

産業部門の視点②「地域外の需要が取り込まれ」について、単に地域外の需要を受け入れるという意味ではなく、地域外の需要を積極的に喚起し、地域内での展開につなげるという趣旨が伝わるよう、表現を再検討してはどうか。

産業部門の視点④「リスキリングなどの学び直しを通じて」としているが、リスキリングは、単なる「学び直し」というより、新たな仕事や分野への挑戦に必要なスキルを身につける意味合いがあり、「学び直し」はリカレントである。「リスキリング＝学び直し」と受け取られないよう、「学び直しやリスキリングが進み」など、表現を工夫してはどうか。

（柳沢委員）

「自助・共助・公助」について、総合計画として行政がどのように取り組むのかを示した上で、市民等がどのように協力していくのかという順序が適切ではないかと思う。

「多様な主体」については、部会でも議論になったが、未来像では前提として示し、具体的な対象については、基本計画のコミュニティ分野で詳しく記載するという整理でよいのではないか。

（事務局）

いただいた意見を踏まえ、関係部局とも調整しながら、必要に応じて修正を検討する。

（池森委員）

ひと部門の視点④「子育て世代を地域全体で支えている」について、32 ページの記載も踏まえ、「妊娠・出産」という言葉を加えてもらいたい。

産業部門の視点①「風土・歴史」について、「景観」を加えるとともに、「保全・継承」ではなく、「保全・活用」など、発展的な表現としてはどうか。

＜行政経営の基本方針（12～13ページ）＞

（小山委員）

12 ページの「職員の確保は難しい状況です」について、他の記述との文末の統一も考慮し、「難しい状況にあります」などの表現としてはどうか。

また、「まちづくりの進め方」の説明にある「積極的な対話と共感を通じて、信頼関係」という表現について、「対話」と「共感」が同列に並んでいるように感じるため、「積極的な対話による相互理解」や「丁寧な対話を通して、共感と理解を深める」など、両者の関係が分かる表現を検討してはどうか。

（髙木会長）
行政経営の基本方針であることを踏まえ、主語として「長野市は」を入れると分かりやすくなるのではないか。例えば、「長野市は、市民、企業、団体と」とするなど、表現を検討してほしい。

（今村委員）
基本方針の３つの柱のうち、「まちづくりの進め方」だけに「まちづくり」という言葉が使われている点が気になる。今回、「まち部門」など「まち」を部門名として用いていることから、ここでは「市政の進め方」や「行政の進め方」などの表現の方が適切ではないか。

（池森委員）
「まちづくりの進め方」に代えて、「くらしの進め方」としてはどうか。

（事務局）
「まちづくり」は行政内部でも幅広い意味で使用している。今回は、多様な主体と一緒に取り組む行政の進め方全般を表現する言葉として、「まちづくり」が適切と考えている。

＜土地利用構想（14～18ページ）＞
（小山委員）
14 ページ「策定の趣旨」について、荒廃農地や整備が必要な森林の増加、水害・土砂災害の激甚化などの課題が列挙されているが、それぞれがどのような要因によって生じているのかが分かりにくいため、背景や要因も示した方が理解しやすいのではないか。
また、17 ページの「交通結節機能」について、一般の市民には分かりにくい用語であるため、説明を加えてはどうか。

（柳沢委員）
16 ページのエリアの着色について、都市計画法上の考え方との誤解が生じないよう調整するとのことだが、生活拠点を市街地として整理するという理解でよいか。

17 ページ「市街地周辺エリア」の機能について、「産業機能の合理化・効率化を図ることができるエリア」について、産業機能の合理化・効率化は市域全体に関係するため、市街地周辺エリアに限定するような表現は見直した方がよい。そのため、「一次産業の振興とともに産業機能の合理化・効率化を図っていかなければいけないエリア」とする方が適切ではないか。

18 ページ「中山間地エリア」について、生活中心地での日常生活を支える機能を維持するだけでなく、将来的には生活中心地への集約を図る視点も必要ではないか。広大な中山間地域に集落が点在することで、公共施設や公共交通などの維持が困難になることも考えられるため、生活中心地への集約化は重要である。

（事務局）
エリアの着色については、都市計画法上の考え方との誤解が生じないよう、都市計画マスタープランとの整合も図りながら、担当課と調整する。その他の意見についても、関係部局と調整しながら検討する。

（池森委員）
16 ページ「策定の趣旨」に「地域間のつながりを深める」とあることを踏まえ、市街地・市街地周辺・中山間地の 3 エリアをつなぎ、それぞれの機能を補完する視点を土地利用構想に加えてはどうか。3 エリアそれぞれの特性を示すだけでなく、3 エリアがつながることで見えてくる長野市全体の方向性を表現できるとよい。

（事務局）
3 つのエリアそれぞれの土地利用の方向性を示しているが、エリア間のつながりや相互の機能補完については十分に表現できていない。各地域の特徴を活かしながら、交通や地域間の連携によって相互に支えることが重要と考えており、どのように表現できるか検討する。

（髙木会長）
14 ページ「策定の趣旨」で、空き家や荒廃農地、整備が必要な森林などの課題を示している一方、その下の土地利用区分の面積からは、これらの課題の状況が読み取れない。例えば、荒廃農地や空き家の件数・面積など、課題と関連する数値を示すことで、策定の趣旨と土地利用の現状とのつながりが分かりやすくなるのではないか。掲載箇所も含めて検討してほしい。

（事務局）
土地利用区分の面積は、本市の土地利用の現状を示す基礎資料として掲載しているが、策定の趣旨との関連性が分かりにくい構成となっている。土地利用構想と資料編のどちらに掲載するか、また、関連する個別計画との役割分担も含め、整理を検討したい。

【第2章　前期基本計画(20～54 ページ)】

（柳沢委員）

23 ページ「分野横断テーマ」の「魅力あるまちなかの創出」について、現在進行中の個別計画も包含する形で目標や行動指針が整理されており、よいと思う。

一方、「中山間地域」としている記載については、対象を市域全体とするのであれば、「市街地周辺地域及び中山間地域を含めた市域全体」など、より正確な表現を検討してほしい。

また、20～21 ページ「総合計画体系図」では、分野横断テーマが基本計画の上位に位置付けられているように見える。分野横断テーマは基本計画を制約する上位計画ではなく、基本計画の中で重点的に取り組むテーマという位置付けであるため、誤解を生じないよう体系図の示し方を工夫してほしい。

（事務局）

23 ページの表現については検討する。体系図については、他のページとの整合を図って、各分野の前に分野横断テーマを記載しているが、記載順等について改めて検討する。

（岡宮委員）

28 ページ「人権・福祉分野」の指標「長野市では、困ったときに孤立せず、相談でき、安心して暮らせる」について、「困ったときに孤立せず、相談できる」ことを評価するのか、「相談でき、安心して暮らしている」ことを評価するのかによって、回答や評価が変わる可能性があるため、指標のねらいが明確になるよう検討してほしい。

（久米副会長）

44 ページ「商工業分野」の指標「長野市の中心部（駅周辺・商店街など）には活気がある」について、「駅周辺」が具体的にどこを指すのか分かりにくいため、対象範囲を明確にしてはどうか。

また、商工業分野全体の指標として、中心市街地だけの活気を市民の感覚で捉えることが適切なのかも含めて検討してほしい。

（髙木会長）

「駅周辺」という表現では対象が分かりにくいため、中心市街地のことであれば「長野駅周辺」とし、具体的な範囲が伝わる表現を検討してほしい。

（事務局）

商業全体を把握することは難しいため、現時点では中心部のにぎわいについて市民の実感を確認する指標として考えている。いただいた意見を踏まえ、担当課と協議しながら、より適切な指標を検討する。

（清水委員）
37 ページ「防災・安全分野」の「みんなができることのヒント」について、「避難場所」と「避難所」は意味が異なるため、両方を記載するか、特に指定避難所について明記するなど、適切な表現を検討してほしい。

（池森委員）
20～21 ページ「総合計画体系図」の分野横断テーマについて、13 分野と並列の位置付けと考えている。13 分野で拾い切れない課題を横断的に扱うものという趣旨であれば、分野の下に配置するなど、上位計画と誤解されない示し方の方が適切ではないか。

（柳沢委員）
分野横断テーマを 13 分野の下に配置すると、政策の上位レベルに見えてしまうため、現在の配置を単純に以前の形に戻すだけでは解決しない。分野横断テーマは体系図から外し、別のページで独立して示す方法も考えられるのではないか。
分野横断テーマは、35 の政策の中で特に重点的に取り組むテーマであり、基本計画を制約するものではない。具体的な庁内連携の仕組みまで整理できていない現段階では、体系図で無理につなげる必要はないのではないか。

（岡宮委員）
13 分野を検討する上で、分野を横断して考えることが重要という趣旨であれば、体系図の中で上下関係を示すよりも、別ページ等で分野横断テーマとして示した方が分かりやすいのではないか。

（久米副会長）
分野横断テーマは、各分野で検討してきた課題とは別に、行政の縦割りを越えて横断的に取り組むという新たな課題として捉えることができるため、体系図から切り離して示す方が趣旨に合うのではないか。

（児島委員）
行政の縦割りを越えて横断的に取り組むことには難しさがある。分野横断的な取組については、行政と委員がともに十分に検討しながら進めていくことが重要である。

（髙木会長）
現在の体系図は分かりやすい一方、分野横断テーマが基本計画の上位にあるように誤解される可能性がある。委員から出された意見を踏まえ、本来の趣旨が適切に伝わる示し方を検討してほしい。次回、複数案を示すことも含めて対応をお願いしたい。

4　その他

今後のスケジュールについて

「資料３」について事務局より説明

5　閉会